

法華寺だより



春の日差しのもと ご先祖様と語りましょう

春のお彼岸ですよ

彼岸会法要

およそ千二百年前各地の国分寺で仏の徳をたたえ国の安泰を願うお経を上げたのが始まりとされています。一般庶民に広く広がったのは江戸時代です。仏教では、私たちが煩悩に満ちたものが住む世界を此岸、仏

の世界を彼岸と言います。私たちも仏の世界に到達するようにという願いを込める彼岸会法要。ご先祖が彼岸で安穏な日々を過ごして欲しいと願い、私たち自身もそのうち無事に彼岸に到達したい。でも、今は安心安全な生活でありたい。そう願って塔婆供養をするのです。

南無妙法蓮華經

道楽

「どうらく」 怠け者やばくちに明け暮れる人などを「道楽者」と呼んだり、本職以外の趣味にして楽しむ「道楽」もあります。概してあまり良い意味には使われません。しかしこの言葉本来の意味は、仏道修行によって得られる悟りの境地に達した楽しみや法

仏教語

くらしの中の

悦の境地のことです。釈尊は、仏道修行の基礎となる八つの実践徳目を「八正道」として示された。これらは聖者への道で有り、仏教徒はこの道を進み、「道楽」を目指すわけです。人間の作り出す欲望と道楽は限りありませんが、誠の楽しみも忘れないでね。

【仏教語散歩】

(さだまる新書) 参照

インド参拝の旅

インドと海峽を挟ん斯里ランカには、身延別院という身延山久遠寺の末寺があります。それ以外にも「講」と呼べるような日蓮宗信者の集まりがあります。これは以前日本の新興宗教団体の布教活動により入信したのですが、やはりこれはおもしろい、正當な日蓮宗徒になりたいたいと改宗された人たちの集まりです。



荒行僧成満
祈願会
二月十七日

ご案内

三月

十三日 婦人会総会
二十日 春季彼岸会法要

四月

八日 釈尊降誕会法要
十三日 行学会

心といのちの相談所
老若男女幾つになっても悩
みや心配事の絶えないもの

ご来所やお電話を……
TEL 一三三・四〇三三



このような現象はヨーロッパや北米など他の国でも生じており、徐々に受け入れが進んでおります。しかし、現地で布教活動の出来る日本人僧侶の数が限界があり、その上外国人僧侶の育成も非常に難しく、従ってそのペースはゆっくりとしたものです。海外布教に興味のある方ご一報をお待ちしています
南無妙法蓮華經
法華寺副住職 内山智道

今月の聖語

ひとち
人の智はあさく
ぶつきょう
仏教は

ふかくなる

【社会と生き方】

聖人は、旧師への供養のために、人として報恩のあり方から書き起こされ、仏教の歴史を示し、その核心を説かれ、生きとし生けるものへの広大な慈悲の世界を述べられました。

「報恩抄」より

日蓮聖人御遺文



覚書

二月

- 二日 節分会等の諸準備
三日 節分会・星祭り
五日 芽室実勝寺星祭り
十五日 帯広仏連
十七日 荒行僧成満祈願会
十九日 広尾広教寺星祭り
二十二日 宗務院
二十八日 帯刑教誨



一 休 み

●「日蓮宗信行読本」より（拾い読み）●

第四章 日蓮宗の葬儀と追善供養

1 日蓮聖人は死をどのように見られていたか
死を迎える心構えは

死が逃れない宿命であることをコミカルな対話で示しています。また、太田蜀山人の辞世の歌には

「昨日まで人のことかと思ひひしが

俺が死ぬのかこれはたまらん」というのがあるそうです。人は死というものを、実感として考えたくないらしい。……でもやってくる死。

ある老尼が話す、人が大往生する条件は。

その一つ、「本人が満足し、納得出来る一生を過ごすこと」本人が喜びを感じていない一生は、宝を背負つ

「奉仕に感謝」

☆丸毛清美様 餅米二十kg
☆布薩会と婦人会の様 節分会・星祭り及び

荒行僧祈願会法要の諸準備



法華和讃

(四十二)

ひとめ やぶ はて あさころも
人の目に破れ果たる麻衣

ほとけ おめ にしき
仏の御目に錦なりけり

なむみようほうれんげきよう

南無妙法蓮華経

妙法和讃

三 私見

【破れ果たる麻衣】

三年半に及ぶ厳しい佐渡での流人生活は、丈夫な麻の衣でさえも破れ衣。しかし、お釈迦様から見れば立派な衣に見えたでしょう。

実際には、塚原の三昧堂から一谷(いちのさわ)に移ってから、生活環境はかなり改善されている

編集後記

●釈尊の「八正道」●

「正しい見解」「正しい思い」「正しい言葉」「正しい行為」「正しい生活」「正しい努力」「正しい心遣い」「正しい精神統一」
◆理念としては判るけれど
◆「正しい」... どのような事を指すのか
◆それだけの生き方もある
◆いずれにしても私は「人として恥じない

生き方」をすることしか出来ない

と... 参照・引用

思※日蓮聖人聖語カレンダー

う※「日蓮検定」

※「日蓮宗新聞」

※「日蓮と日蓮宗」

※「仏教語散歩」等々

